

総合計画体系	政策No. 4	政策名 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課 教育委員会 生涯学習課
	施策No. 22	施策名 青少年の健全育成	施策主管課長名 名執 彰一
施策関連課名			

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 青少年(12歳~20歳と定義) 市民	➡	③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
		名称	単位
② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) 大きな夢を持ち、その夢に向かい一生懸命生きる。 健全に育つ。(非行に走らない。) 大人から目を向けられる。 地域が一体となり健全育成のための環境が整備される。	➡	④ まちづくり指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
		名称	単位
		A 青少年数	人
		B 市人口	人
		C	
		A 家庭や地域ぐるみの青少年教育に関する市民の満足度	%
		B 青少年の補導件数	件
		C	
		D	
		E	
・まちづくり指標設定の考え方 (理由、数式も) ・まちづくり指標の測定規格 (手段はアンケートか、統計か)		A: 青少年の健全育成に関する市民の評価を示す。【市民アンケートの「家庭や地域において、児童・生徒などの健全育成のための青少年教育が行われていると感じますか?」において、「感じる」「まあまあ感じる」と回答した人の割合】 B: 青少年の非行・犯罪防止対策の効果を示す。【南アルプス警察署が把握している補導件数】	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A	人	見込み値 7,262	7,238	7,213	7,189	7,164	7,139	7,115
	B	人	見込み値 72,963	72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
	C		見込み値 実績値						
まちづくり指標	A	%	目標値 25.7	32.0	28.0	30.0	32.0	34.0	36.0
	B	件	目標値 415	697	404	398	392	386	380
	C		目標値 実績値						
	D		目標値 実績値						
	E		目標値 実績値						
関連事業本数			21	21	14	14			
関連事業予算額(単位:千円)			19,303	18,924	19,047	18,882	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		235	194	207	223			
	県支出金		235	194	207	223			
	地方債		0	0	0	0			
	その他		0	0	0	0			
一般財源			18,833	18,536	18,633	18,436			

目標値の設定の根拠
(前提条件や考え方等)

A: 現行値から5年間で約10%の増加を目標に設定
B: H27年からH37年までに10~19歳人口は18%減ると想定されている(H27:7,796人、H37:6,388人)ことから、子供たちの人口減少を勘案してH36年度340人、中間年は380人を目標とする。

3 評価結果

施策の有効性評価

① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- 目標値より高い実績値だった
- 目標値どおりの実績値だった
- 目標値より低い実績値だった

※左記の理由

指標Aは目標値がここ数年下回っているが前年度に比べると若干上回る結果になった。これは各地区での青少年健全育成の取り組みや市内全域あいさつ運動の展開が評価に繋がっていると考える。指標Bは目標値を大きく上回り前年度に比べて検挙者は18人減少している。

② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）

- 成果がかなり向上した
- 成果がどちらかと言えば向上した
- 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）
- 成果がどちらかと言えば低下した
- 成果がかなり低下した

※左記の理由

指標Aはほぼ横ばい状態となっている。学校・家庭・地域が一体になり、また連携して地域ぐるみで子どもを育てることが重要であるが、少子化や核家族化の進行、コミュニティの希薄化や他者への無関心の広がりなどが結果に反映していると思われる。指標Bは深夜徘徊や喫煙などの不良行為は年々減少傾向にあり、各地区で実施している夜間パトロール等、地道な活動により補導件数が減少したと推測される。

③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

「市民全体で青少年を育てよう」という気運を高めるため、地域で青少年育成活動を行い、各種関係団体・機関との連携を密接に図り、青少年の健全育成活動を推進している。同様な比較はないが「地域の子どもは地域で守り育てる」という目標は他自治体も同じであり、ほぼ同水準といえる。

④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

市民会議による市内環境巡回調査や各支部事業による愛のパトロール等の実施のほか市内全域あいさつ運動を展開している。また警察や関係機関と連携しながら青少年の指導にあたっているが、市民の期待度66.5%に対して、満足度は26.9%と低かった。

4 まとめ

施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容

施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
コミュニティの希薄化や他者への無関心の広がり起因する青少年を取り巻く社会環境の悪化	学校・家庭・地域の連携強化による青少年健全育成運動の推進	「声かけ・あいさつ運動」の展開 青少年育成市民会議の活動推進
情報機器の普及および多様化に伴い、インターネットを介した誹謗や中傷、いじめなど子どもを巻き込む犯罪行為が懸念される。	情報機器の利用やモラル、マナーに関する情報教育の推進	インターネット上のモラルやマナーの向上に関する啓発、ネット犯罪から身を守る行為の普及など、情報教育や道徳教育の一層の充実を図る。
青少年の相談体制が機能していない	学校カウンセラーや福祉総合相談課との連携による相談体制の構築	現在の青少年カウンセラーは市民会議の事務局機能を担っており、本来のカウンセラー業務を行っていない。※昭和40年代初頭に設置された青少年カウンセラーは当初より町民会議の事務局。 青少年カウンセラー室に社会福祉士・精神保健福祉士等を配置し、青少年の相談体制を構築していきたい。